

Ⅲ 「郷土と日本、そして世界を知る力」を育成する

1 郷土の魅力を学び、世界の多様性を理解

(1) 国際的視野を持つ人材の育成 <<施策22>> 高校教育課、義務教育課、特別支援教育課

令和元年度 施策の基本的なねらい

- ◇ 英語教員の英語力向上を図るとともに、「聞く・読む・話す・書く」の4つの技能を総合的に育成する授業改善を進め、グローバル化に対応した英語教育の充実を図ります。
- ◇ 学習指導要領改訂に伴う小学校における英語教育の教科化に向け、教員の英語力・指導力の向上及び効果的な指導体制の整備を進めます。

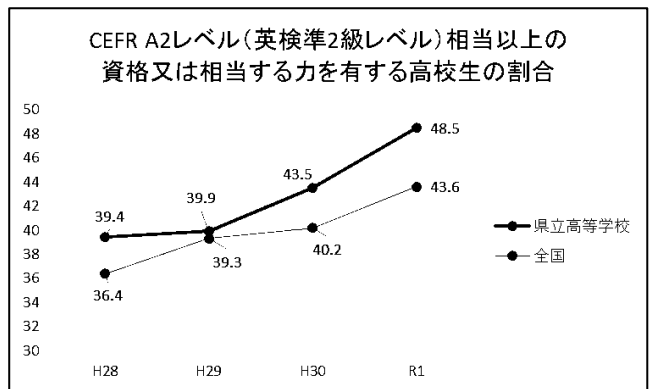
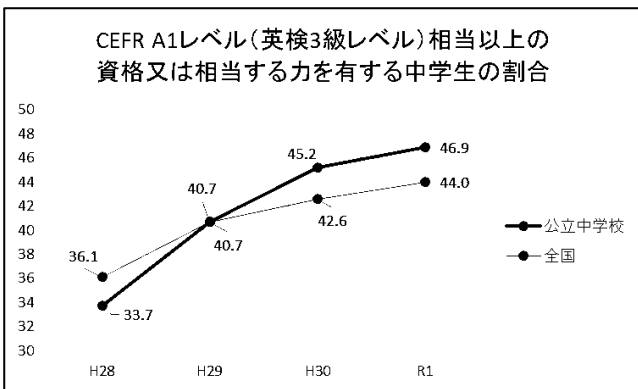
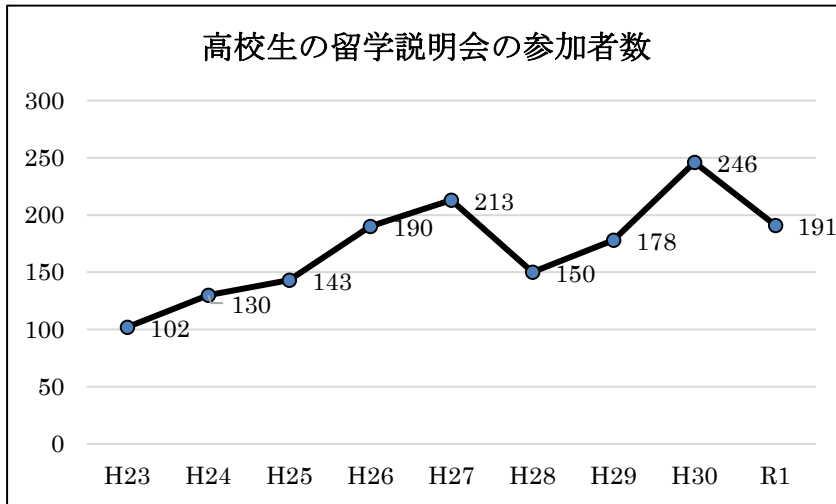
令和元年度 主な取組・事業

取組・事業名	実績
世界に挑む 人材育成事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> ○ 留学促進チラシ配布(説明会)県内高校1・2年生全員 ○ 留学助成金 給付者数 55 人(6校) 留学2週間以上1年未満の学校単位の留学プログラムに対し、一人当たり5万7千円の助成金給付(高校生等奨学給付金受給者は5万円を上限として加算) ○ 高校生海外留学説明会 1回(9月) 留学に役立つ講演、留学に関する説明会・相談会、留学体験報告参加者数 191 人
ふくおか グローバルハイスクール 事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県内高校のスーパーグローバルハイスクール指定校(2校:平成27年度から5年間) ・ 県立鞍手高等学校 「筑豊から世界へ!グローバルシティズンシップを持った『たくましき前進者』の育成」 ・ 県立京都高等学校 「国内外の農業問題に挑むグローバルリーダーの育成」
グローバル化に対応した 英語教育の推進 <重点事業15>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 外国語指導助手(ALT)の配置(令和2年3月現在、政令市を除く。) ・ 高等学校対象 73 人 (高校教育課1人、県立高等学校71人、県立中等教育学校1人) ・ 小中学校対象 220 人 (教育事務所16人、義務教育課1人、市町村教育委員会203人) ○ 配置校以外へのALTの派遣 ・ 特別支援学校77回、高等学校22回、高等学校英語合宿10人 ○ ALT研修会 年6回 ○ ALT指導力等向上研修 年1回(2日間) ○ 英語活動指導員を高等学校に4人配置 ・ 英語以外の科目等を英語で教えるイマージョン教育^{注1)}を実施 ・ イマージョン教育公開授業の実施 年間8回 参加者308人 ○ ネイティブ英語教員を高等学校に3人配置 ・ 生徒の統合型の英語力(聞く、読む、話す、書く能力)を育成 ○ 福岡県英語教員指導力向上研修の実施 ・ 1,121人(小学校 年6回 769人、中学校 年2回 247人、高等学校 年4回 105人)がモデル研修、メソッド研修、フィードバック研修に参加 ○ 県立高校の外部英語検定試験受験希望者のうち、高校生奨学給付金受給者に対する受験料の補助 ○ 高校入試におけるスピーキング導入に向けた調査・研究

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国の中央研修を修了したエリアマネージャー11名が27市町村のモデル中学校校区の小学校(61校)を巡回し、小学校英語教育の体制整備を支援 ○ 中学校3年生(政令市、県立中学校、中等教育学校を除く)を対象に英検IBAテストを実施(受験者20,873名) ○ 中学生を対象に中学生英語スピーチコンテストを実施(政令指定都市等を含む県内8地区の予選から44名が出場)
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

指 標

指 標	指 標 の 概 要	現 状 値	目 標 値	達 成 状 況
高校生の海外留学の啓発	留学説明会の参加者数	191人 (R1年度)	200人 (R3年度)	○
生徒の英語力	CEFR A1レベル相当以上(英検3級程度以上)の資格又は相当する力を有する中学校生徒の割合	46.9% (R1年度)	50% (R3年度)	○
	CEFR A2レベル相当以上(英検準2級程度以上)の資格又は相当する力を有する県立高等学校生徒の割合	48.5% (R1年度)	50% (R3年度)	○



成 果 「聞く」「読む」「話す」「書く」力を育成する英語の授業改善が図られました。

- ・ 留学説明会に対する県内での認知度は、チラシやHPの効果もあり年々高まっています。県立高等学校・中等教育学校（高等部）における留学者数については、10～20人台で推移しています。
- ・ 英語活動指導員によるイメージ授業において、生徒の英語力及び学習意欲が高まりました。教員の関心も高く前年度に比べて公開授業参加者が1.3倍に増えました。
- ・ ふくおかグローバルハイスクール事業について、各指定校は校内及び全国で発表会を行ったり、研究報告書を作成したりするなどして、5年間の研究の集大成としてその研究成果を還元しました。
- ・ CEFR B2 レベル相当以上(英検準1級程度以上)を有する英語教員の割合が増えました。(高等学校:平成30年度71.9%→令和元年度79.9%)
- ・ CEFR A1 レベル相当以上(英検3級程度以上)の資格又は相当する力を有する中学校生徒の割合は46.9%でした。平成30年度から1.7ポイント上昇し、国の目標値である50%に向けて順調に向上しています。
- ・ 「CAN-DO リスト」^{注2)}形式の学習到達目標を設定している中学校及び学習目標の達成状況を把握している中学校の割合は100%(政令市を除く。)でした。

課 題 生徒の4つの技能を総合的に育成するため、英語教員の指導力と英語力をさらに高める必要があります。

- ① 留学説明会の参加者の関心をさらに高め、県立高校生徒の留学者数のさらなる増加につなげる必要があります。
- ② 授業改善を一層充実させ、生徒の「聞く・読む・話す・書く」の4つの技能を総合的に育成する必要があります。また、英語教員のCEFR B2 レベル相当以上(英検準1級程度以上)の取得者数をさらに増やす必要があります。
- ③ CEFR A1 レベル相当以上(英検3級程度以上)を取得する中学生の割合をさらに向上させる必要があります。

対 応 英語教員の指導力・英語力向上のための研修等を引き続き実施します。

- ① 留学説明会の内容をさらに充実させ、高校生の海外留学への興味・関心を高めるとともに、留学に対する助成金の周知に努め、留学者数の増加へとつなげていきます。
- ② 生徒の統合型の英語力(聞く、読む、話す、書く能力)を育成するために、英語活動指導員やネイティブ英語教員を更に積極的に活用し、英語教員に対する研修として、配置校において公開授業を実施します。
- ③ 小中学校教員対象の英語力向上研修を実施して、教員の英語力及び英語指導スキルの向上による英語授業改善を図るとともに、中学3年生を対象とした英検I B Aテストの実施や中学生英語スピーチコンテストの開催を通して、英語力の高い生徒の育成に努めます。

注釈

注1) 英語イメージ教育:英語以外の授業を英語で学ぶことで、より実践的な英語力の向上を目的としたもの。

注2) CAN-DO リスト:4技能(「聞くこと」「読むこと」「話すこと」及び「書くこと」)別に設定した、学年、学期ごとの学習到達目標の一覧。